

# 中部大会速報

13 富山県 富山第一高校

## 苦悩する私たちを表現

### 「十五の春は泣かせない」

26日、富山第一高校（富山県）が「DQ:大丈夫か？」を上演した。高校生の悩みをリアルに表現した。

上演後、キャスト、演出の方にインタビューした。

#### 伝える劇

同校の上演では、最後のダンスをするシーンを見せたかった。また、劇中の中村役は、高校受験に失敗したことを引きずっている様子を手く表現した。脚本の制作意図は、どんな場所、どんな状況でも、人は頑張っ生きていけるということだ。さら

に、挫折したことがあった人に対して、未来は必ずあり、大丈夫だということを伝えたい。たかった。

#### 工夫と努力の劇

教室でのざわめきを、キャストがその場で表すために、一人ひとりが場面を頭の中で描き、練習した。白雪姫の衣装や小人の衣装は、それぞれ先輩の親が作ったり、部室にあったものを加工して使用するなど、部全体で協力した。

プロジェクターを使うなど、今までにない舞台装置を使用した。観客が場面を想

#### 発行

第68回中部日本高等学校演劇大会生徒実行委員会 広報

2015年

12月26日

#### 作品名

R:大丈夫か？

創作 Original

#### 編集後記

主役の青山役（小塚）を始め、三人の方々に対応していただいた。同部は非常に賑やかで明るく、忙しい中でも丁寧に対応していただいた。

インタビューの中にもノリツコミがあるなど、非常に面白く、高校生らしい場面をみる事ができた。

#### 感想カードより

それぞれのキャラクターが立っていてわかりやすかった。ラストのプロジェクターの前に立つ演出がとても印象的だった。

（K 高校 Fさん）

高校入試という、誰もが通る道を題材にしていて『15で泣くのは、16・17で笑顔になるため』という

言葉がすく胸に刺さった。

（T 高校 Iさん）



母親が苦情を言っているシーン。

上演して非常に楽しんで上演でき

像する際に、よりわかりやすくなった。プロジェクターで映していたものは去年の全国大会で使用していたものを再度利用し、作成した。また、作成にはパワーポイントを使用するなど、多くの工夫があった。



文化祭の出し物をしているシーン。

た。青山役は、中村役に想いを伝えることができてよかった。さらに本番直前に、プロジェクターに熱がこもって故障するなどのトラブルもあったが、なんとか直し、無事上演できた。